

## 大阪市立山之内小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

○令和 6 年度大阪市小学校学力経年調査における正答率は 3 年算数、5 年国語・社会・算数、における学年平均点が大阪市平均点を上回り、4 年国語、6 年算数についても大きく向上させることができた。学力が著しく向上した児童の傾向は以下の通り。

- ・授業において規律正しくうけることができている。
  - ・集団行動が素早く、グループ学習やペア学習を円滑にできる。
  - ・授業以外の時間帯に予習・復習ができる。
  - ・九九や繰り下がり・繰り上がり算など基礎を定着するまで反復できる。
  - ・宿題など課題をできるまで「やり切る」ことができる。
  - ・問題を素早く正確に読み取ることができ、題意を汲んで解答し、見直しができる。
- であった。

○児童アンケートにおいて目標を達成できなかった項目があり、重点的に取り組んでいく必要がある。

・令和 6 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 95% にする。【R3 74.4 ⇒ R4 70.8 ⇒ R5 72.8 ⇒ R6 74.3】

・令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40% にする。【R2 24.0 ⇒ R3 31.4 ⇒ R4 32.2 ⇒ R5 34.9 ⇒ R6 33.8】

○令和 6 年度に実施した校内体力測定

・男女とも経年比較で記録は改善している。全国平均記録と比較して男女とも上回り、女子は下回った。今後も、全学年の記録を把握し、記録をもとに目標を設定し、取り組んでいく。

○学びを支える教育環境の充実

・次年度のタブレット端末更新に向けて対応を準備している。

○令和 6 年度の「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合は目標を上回っている。

○令和 6 年度は、外部から投石によるガラスの破損、タバコやごみの投げ入れなど関係諸機関への通報は 3 件だった。今後も、関係諸機関と連携し、対策を推進していく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%にする。

【R1 82.3⇒R2 中止⇒R3 74.4⇒R4 70.8⇒R5 72.8⇒R6 74.3・全市共通目標】

○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を増加させる。【R3 33.3%、前年度旧1～5年不登校児童6人→改善2人⇒R4 33.3%、前年度不登校児童9人→改善3人⇒R5 33.3%、前年度旧1～5年不登校児童3人→改善1人⇒R6 71.4%、前年度不登校児7人→改善5人・全市共通目標】

※改善とは、次の状態をいう。

- 1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む）
- 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

○令和7年度末の児童アンケート「学校でのあいさつや地域の方への挨拶を進んでしている」の肯定的回答を90%以上にする。【R3 78⇒R4 81.1⇒R5 79.4⇒R6 83.0】

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査における国語・算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。【R5 6年国80→72→85→82、算88→77→78→97、5年国64→73→73、算70→77→72、4年国73→83、算89→103、3年国72、算90⇒R6 6年国72→85→73→68、数77→78→72→75、5年国73→83→98、算77→103→107、4年国72→80、算90→92、3年国81、算104・全市共通目標】

○令和7年度に実施する全国体力運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比を1.00以上にする。

R5 男子1.07（本校56.28、全国52.59）点、女子0.90（本校49.00、全国54.28）点

R6 男子1.06（本校55.72、全国52.53）点、女子1.05（本校56.48、全国53.92）点

### 【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の授業日における、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）

【令和6年度より新規の指標 R6 0% 学びのポータルへのアクセスしてカウント 12月平均の一日当たり学習者用端末を活用した児童の割合は40%】

○令和7年度の「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。【R3 41.94⇒R4 40.63⇒R5 55.88⇒R6 56.67】

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を95%にする。【R1 82.3、R2 中止、R3 74.4⇒R4 70.8⇒R5 72.8⇒R6 74.3】

○年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。【R3 33.3%、前年度旧1～5年不登校児6人→改善2人⇒R4 33.3%、前年度不登校児9人→改善3人⇒R5 33.3%、前年度旧1～5年不登校児童3人→改善1人⇒R6 71.4%、前年度不登校児7人→改善5人】

(学校独自)

○児童アンケート「学校でのあいさつや地域の方への挨拶を進んでしている」の肯定的回答を80%以上にする。【R3 78⇒R4 81.1⇒R5 79.4⇒ R6 83.0】

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。【R6 6年国 72→85→73→68、5年国 73→83→98、4年国 72→80、3年国 81】

○令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。【R6 6年算 77→78→72→75、5年算 77→103→107、4年算 90→92、3年算 104】

(学校独自)

○令和7年度に実施する全国体力運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比を1.00以上にする。

R4 男子 0.93 (本校 48.67、全国 52.28) 点、女子 0.94 (本校 51.03、全国 54.31) 点

R5 男子 1.07 (本校 56.28、全国 52.59) 点、女子 0.90 (本校 49.00、全国 54.28) 点

R6 男子 1.06 (本校 55.72、全国 52.53) 点、女子 1.05 (本校 56.48、全国 53.92) 点

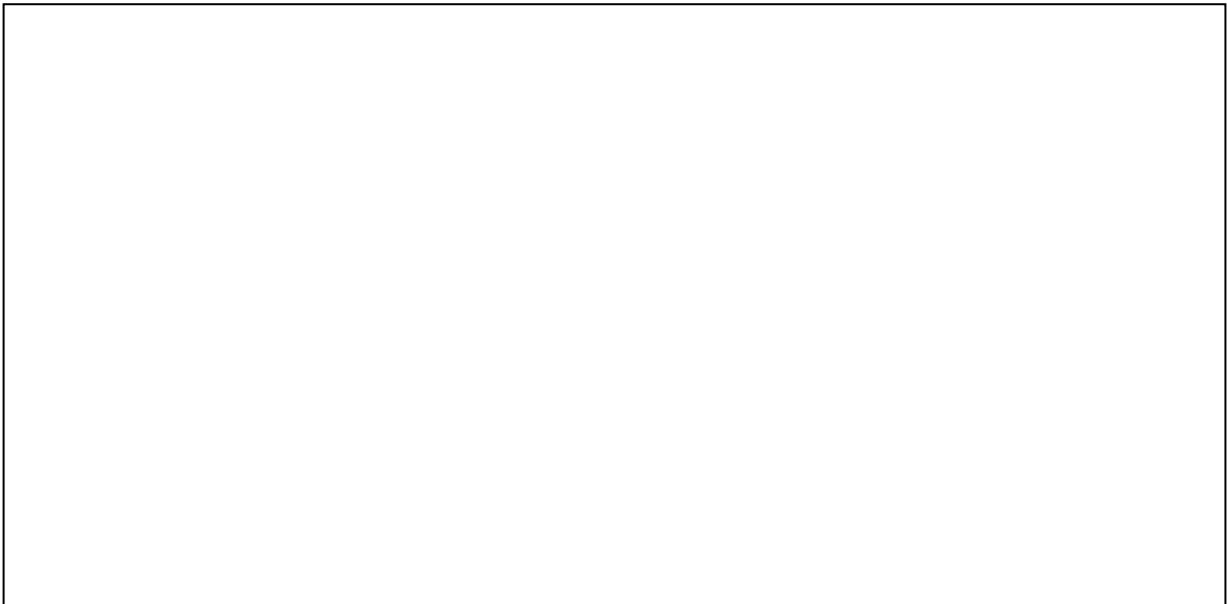
### 【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を56%以上にする。【R3 41.94⇒R4 40.63⇒R5 55.88⇒R6 56.67】

○令和7年度の授業日における、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。(ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)

【令和6年度より新規の指標 R6 0% 学びのポータルへのアクセスしてカウント 12月平均の一日当たり学習者用端末を活用した児童の割合は40%】

3 本年度の自己評価結果の総括



## (様式2)

## 大阪市立山之内小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b> ○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を95%にする。【R1 82.3、R2 中止、R3 74.4、R4 70.8 R5 72.8⇒R6 74.3】  ○年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。 【R3 33.3%、前年度旧1～5年不登校児6人→改善2人⇒R4 33.3%、前年度不登校児9人→改善3人⇒R5 33.3%、前年度旧1～5年不登校児童3人→改善1人⇒R6 71.4%、前年度不登校児7人→改善5人】  (学校独自) ○児童アンケート「学校でのあいさつや地域の方への挨拶を進んでしている」の肯定的回答を80%以上にする。【R3 78⇒R4 81.1⇒R5 79.4⇒R6 83.0】			
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
<b>取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</b> あいさつの行き交う安心できる学校にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 子どもに「どうしたの?」「大丈夫?」「どうしたい?」をきき、子どもの困り感に寄り添う。</li> <li>➤ 子どもが活躍し、称賛される場や機会をつくる。</li> <li>➤ 子どもに教職員が率先してあいさつする。あいさつ週間、集会などにより、子どもたちのあいさつをする意識を高める。</li> <li>➤ 暴言・暴力行為を見たときは、複数で対応し、教職員全員で児童全員を見守り続ける。</li> <li>➤ 教職員が共通理解をしながら指導を進める。</li> </ul> <b>指標</b> ○児童アンケート「学校でのあいさつや地域の方への挨拶を進んでしている」の肯定的回答を80%以上にする。【R3 78.0⇒R4 81.1⇒R5 79.4⇒R6 83.0】 ○令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%にする。【R3 74.4⇒R4 70.8⇒R5 72.8⇒R6 74.3】			
<b>取組内容②【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</b> 不登校を0にするために、情報交換し合い、学校に来にくい子が、前年度よりも1日でも多く登校できるように工夫した取り組みを行う。また、学校に来にくい子どもとク			

ラスマートを繋ぐ工夫を試み、安心して学校に来られる基盤をつくっていく。

指標

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【R3 1.74%、在籍数 517 人中不登校児 9 人⇒R4 0.62%、在籍 482 人中不登校児童 3 人⇒R5 2.59%、在籍数 463 人中不登校児童 12 人⇒R6 2.76%、在籍 434 人中不登校児童 12 人】

○児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的割合を 80%以上にする。【R3 80.0⇒R4 85.9⇒R5 82.8⇒R6 82.0】

取組内容③【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】

思いやりのある主体的な子どもを育てるとともに、子ども同士をつなぐ。  
縦割り班活動などを通して、子どもたちのつながりを深めていく。

指標

○児童アンケート「学校行事は楽しいと思いますか」の肯定的回答を 85%以上にする。【R3 85.0⇒R4 85.4⇒R5 86.5⇒R6 87.0】

○児童アンケート「自分とちがう学年の人と仲よくしたり協力したりした」の肯定的回答を 80%以上にする。【R3 74.0⇒R4 81.7⇒R5 81.8⇒R6 80.0】

取組内容④【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】

学びの中で交流する機会を増やし、相手のおもいを受けとり、自分の考えを話せるようになる。交流を通して自分と相手の良いところに気づけるようにする。

指標

○具体的な取り組みを年間 2 回以上交流する（中間評価、最終評価の際）

○児童アンケートの「自分には良いところがあると思いますか」の肯定的割合を 80%以上にする。【R3 74.0⇒R4 71.4⇒R5 76.3⇒R6 79.0】

取組内容⑤【基本的な方向番号 1、安全・安心な教育環境の実現】

日常の活動の中で、危険を予測する力をつけて、事故やけがを防げるようになるための取り組みを実施する。

指標

○事故やけがを防ぐための取り組みを学期に 1 回以上実施する。

○児童アンケート「安全に気をつけて遊んだり行動したりしている。」の肯定的割合を 90%以上にする。【R3 91.0⇒R4 89.7⇒R5 89.1⇒R6 90.0】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

## (様式 2)

## 大阪市立山之内小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○令和 7 年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の<b>対全国比</b>を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。【R5 6 年国 80→72→85→82、5 年国 64→73→73、4 年国 73→83、3 年国 72⇒R6 連絡待ち】</p> <p>○令和 7 年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の<b>対全国比</b>を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。【R5 6 年算 88→77→78→97、5 年算 70→77→72、4 年算 89→103、3 年算 90⇒R6 連絡待ち】 (学校独自)</p> <p>○令和 7 年度に実施する全国体力運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比を 1.00 以上にする。</p> <p>R4 男子 0.93 (本校 48.67、全国 52.28) 点、女子 0.94 (本校 51.03、全国 54.31) 点 R5 男子 1.07 (本校 56.28、全国 52.59) 点、女子 0.90 (本校 49.00、全国 54.28) 点 R6 男子 1.06 (本校 55.72、全国 52.53) 点、女子 1.05 (本校 56.48、全国 53.92) 点</p>			

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p><b>学力の向上</b></p> <p>学力プロジェクトチームを設置し、低学力児童、支援を要する児童の学力向上を図る。</p> <p>➢ 学び合いの定着、放課後の自主学習、補充学習、個別指導、研修などの具体策の検討、提案や教材開発、教材発掘、授業の視覚化、漢字力の定着、読書の習慣化、学びに向き合う子どもを育てる取り組みを行う。</p> <p><b>指標</b></p> <p>○令和 7 年度の児童アンケートにおける「国語は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 60% 以上にする。【R6 6 年 56.1 5 年 59.5 4 年 62.3 3 年 61.4 (小学校学力経年調査における「国語の勉強は好きですか」)】</p> <p>○令和 7 年度の小学校学力経年調査における各教科の平均正答率の<b>対市比</b>を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも向上させる。【R6 6 年国 68.4→76.2→73.3→71.1、社 74.9→68.3→59.3→56.0、算 72.2→80.7→69.2→77.1、理 76.2→66.7→53.0→65.3、英 78.3→69.6 5 年国 78.6→83.5→100.1、社 88.1→83.0→102.0、算 89.0→102.8→105.7、理 84.1→84.5→100.0 英 96.9 4 年国 76.9→82.7、社 78.1→74.6、算 88.8→91.6、理 74.0→74.0、3 年国 81.9、社 88.5、算 106.5、理 81.4】</p> <p>取組内容② 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p><b>授業力の向上</b></p>	

- 毎週の学年会を指導や教材研究の場として活用する。  
適宜、放課後に自主研修を開催して、話し合い、学び合い、指導力の向上を図る。

**指標**

- 自主研修会を学期に 1 回以上開催する。

**取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】**

**体力の向上**

各運動領域の体育実技研修会を持ち、指導技術の向上を図り、児童の体力向上を図る。

**指標**

- 学期に 1 回以上実技研修会を行う。
- 児童アンケート「体育の授業のなかでうまくなつたことがあつた」の肯定的割合を 85% 以上にする。【R3 83.0⇒R4 84.9⇒R5 88.8⇒R6 90.0】

○令和 7 年度に実施する全国体力運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比を 1.00 以上にする。

R4 男子 0.93 (本校 48.67、全国 52.28) 点、女子 0.94 (本校 51.03、全国 54.31) 点

R5 男子 1.07 (本校 56.28、全国 52.59) 点、女子 0.90 (本校 49.00、全国 54.28) 点

R6 男子 1.06 (本校 55.72、全国 52.53) 点、女子 1.05 (本校 56.48、全国 53.92) 点

**取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】**

**体育的活動・外遊びの充実**

- 外遊びや多様な運動があることを体験させ、体を動かすことが楽しいと思う児童を増やし、体力の向上を図る。

**指標**

- チャレンジ週間（竹馬、一輪車、フラフープ、縄跳び、大縄、鬼ごっこ等）を学期に 1 回実施する。校内放送、集会活動で遊びや運動の紹介をする。

○令和 7 年度の全国体力運動能力、運動習慣等調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60% 以上にする。【R3 47.8⇒R4 61.1⇒R5 65.5⇒R6 77.3】

**取組内容⑤【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】**

**漢字力の定着**

漢字プリントの活用、漢字チャレンジの自主学習を通して漢字力の定着化を図る。

「誰一人取り残さない」

**指標**

- 漢字チャレンジの第 1 回（11 月実施）と第 2 回（2 月実施）を合わせての校内平均点を 80 点以上にする。【新規指標 R6 84.5】
- 児童アンケート「自ら進んで漢字の学習に取り組んでいる」の肯定的割合を 75% 以上にする。【R3 70.0⇒R4 73.2⇒R5 78.9⇒R6 80.0】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

## (様式 2)

## 大阪市立山之内小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○令和 7 年度の第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 56% 以上にする。【R3 41.94 ⇒ R4 40.63 ⇒ R5 55.88 ⇒ R6 56.67】</p> <p>○令和 7 年度の授業日における、児童生徒の 80% 以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 50% 以上にする。(ただし、学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く)</p> <p>【令和 6 年度より新規の指標 R6 0% (学びのポータルへアクセスして心の天気等を入力することでカウントされる。教育委員会からの月間活用状況通知で確認】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6、教育 D X の推進】</p> <p>学習者用端末を活用する。</p> <p>指標</p> <p>○令和 7 年度の授業日における、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 50% 以上にする。(ただし、学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く)【令和 7 年度より新規の指標 R6 0% 学びのポータルへのアクセスしてカウント 12 月平均の一日当たり学習者用端末を活用した児童の割合は 40%】</p>	( )
<p>取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>ゆとりの日の設定を、月 1 回設定する。</p> <p>アンケート・小テスト等 I C T 端末を使えるものは自動集計・採点機能を活用し、業務の時間軽減を図る。</p> <p>指標</p> <p>○令和 7 年度の「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 56% 以上にする。【R3 41.94 ⇒ R4 40.63 ⇒ R5 55.88 ⇒ R6 56.67】</p> <p>※基準 1 次のア及びイの基準を満たすこと</p> <p>ア 1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えないようにすること</p> <p>イ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えないようにすること</p>	( )

**取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】**

**読書習慣の定着化**

学校のみならず家庭での読書習慣の定着化を図る。

( )

**指標**

- 令和7年2月末時点の一人あたりの図書貸し出し冊数を25冊以上にする。【R3  
一人あたり24.4冊⇒R4 一人あたり26.9冊⇒R5 10,948冊一人あたり29.8冊  
⇒R6 年度途中にシステム入れ替えのため4週間の未集計期間あり 9,165冊  
一人あたり21.5冊2月末日現在】
- 図書室開放を週7回以上にする。【R3 週7回⇒R4 週7回⇒R5 週7回⇒R6 週  
7回】
- 児童アンケート「読書は好きですか」の肯定的割合を75%以上にする。  
【R3 73.0⇒R4 75.1⇒R5 75.3⇒R6 77.0】

**取組内容④【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】**

**学校ホームページを定期的に更新する**

児童が活動する様子を積極的に配信する。

( )

**指標**

- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は教育活動の方針や様子を学校ホームページや学校便り等で伝えている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を80%以上にする。【R3 94.0⇒R4 92.5⇒R5 83.0⇒R6 76.7】
- 各学年、週1回以上学校ホームページを更新する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点